

## 平成22年3月期 決算短信

平成22年5月14日

上場取引所 JQ

上場会社名 アールビバン株式会社

 コード番号 7523 URL <http://www.artvivant.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野澤 克巳

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室マネージャー (氏名) 中島 章裕

定時株主総会開催予定日 平成22年6月29日

配当支払開始予定日

TEL 03-5159-7177

平成22年6月30日

有価証券報告書提出予定日 平成22年6月29日

(百万円未満切捨て)

### 1. 22年3月期の連結業績(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期	6,509	△5.5	491	△8.5	439	△15.8	△391	—
21年3月期	6,888	△16.8	537	22.9	521	20.7	24	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利 益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
22年3月期	△28.54	—	△2.8	2.5	7.6
21年3月期	1.76	—	0.2	2.8	7.8

(参考) 持分法投資損益 22年3月期 一百万円 21年3月期 一百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期	16,833	13,576	80.7	1,036.06
21年3月期	18,116	14,510	80.1	1,055.54

(参考) 自己資本 22年3月期 13,576百万円 21年3月期 14,510百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
22年3月期	△1,040	△6	△661	3,507
21年3月期	1,441	△93	△278	5,220

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
21年3月期	—	5.00	—	30.00	35.00	481	—	3.3
22年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00	134	—	1.0
23年3月期 (予想)	—	5.00	—	5.00	10.00		41.0	

### 3. 23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	4,000	19.6	290	△45.0	320	△34.2	140	△47.8	10.68
通期	7,950	22.1	630	28.3	660	50.3	320	—	24.42

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 無

(注)詳細は、15ページ「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期 15,463,816株 21年3月期 15,463,816株  
 ② 期末自己株式数 22年3月期 2,359,570株 21年3月期 1,717,170株

#### (参考)個別業績の概要

1. 22年3月期の個別業績(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期	2,092	△8.2	96	—	1,167	—	321	—
21年3月期	2,280	△31.0	△73	—	3	—	△509	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期	23.44	—
21年3月期	△37.05	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
22年3月期	9,865	8,070	8,070	81.8	615.86			
21年3月期	10,098	8,290	8,290	82.1	603.09			

(参考) 自己資本 22年3月期 8,070百万円 21年3月期 8,290百万円

2. 23年3月期の個別業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 累計期間	900	△13.9	△150	—	△60	—	△80	—	△6.10
通期	1,760	△15.9	△270	—	△110	—	△140	—	△10.68

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予測数値と異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、3ページ「1.経営成績(1)経営成績に関する分析」をご覧ください。

## 1. 経営成績

### (1) 経営成績に関する分析

当連結会計年度のわが国経済は、一昨年の世界的な金融危機による株価の下落、雇用情勢の悪化、個人消費の低迷といった状況が新興国の回復基調や政府の緊急経済対策等により一部には回復の兆しが見えたものの依然厳しい状況のまま推移いたしました。

このような状況の中、当社グループでは、一人でも多くのお客様に、よりご満足して頂く為の営業活動を推進してまいりました。また、収益力のアップを目指し、あらゆる経費の見直し、コストの削減を行い、業績の向上に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高6,509百万円（前年同期比5.5%減）、営業利益491百万円（同8.5%減）、経常利益439百万円（同15.8%減）、当期純損失391百万円（前年同期は24百万円の当期純利益）となりました。

事業の種類別セグメント業績は次のとおりであります。

#### ◆アート関連事業

週末を中心に全国各地で展示販売会を開催し、より多くの新たなお客様にその魅力をお伝えする事を心がけた営業活動を進めてまいりました。また、一方では、既存のお客様に、より高いレベルの満足をご提供するために、作家来場展の開催や、大型催事「ジャパン・アート・エキスポ」を東京・大阪・名古屋で四半期毎に開催し、週末の展示販売会とともに営業活動の2本柱として位置づけております。

子会社『株式会社e・ジュネックス』においては、店舗の見直しを行い、昨年10月には新規顧客の獲得アップと既存顧客へのサービスのアップを目指し、名古屋店を移転増床いたしました。また、デジタルアート部門では新たに人気キャラクター、コンテンツサイトを含む2コンテンツを立ち上げました。出版部門においては、多数のイラスト系作家と強いパイプを構築することで、版画部門での作品の提供、デジタルアート部門でのコンテンツ提供に貢献いたしました。イラストグッズにおいてはフィギュア販売が新規顧客の獲得につながりました。

子会社『株式会社ダブルラック』においては、今後の事業の多角化のために、世界のアートに目を向け、サザビーズ、クリスティーズをはじめ、世界の様々なオークション企業と提携し、将来の販売を目的とした絵画・美術品の購入・販売を実施してまいりました。

この結果、「イラスト系アート」「スタンダードアート」の販売が低調だったことから、アート関連事業の売上高は4,070百万円（同4.0%減）となり、広告宣伝費・会場費等のコスト削減をしたものの、美術品販売事業の棚卸資産の評価替による売上原価の上昇等もあり、営業利益は163百万円（同50.2%減）となりました。

#### ◆金融サービス事業

子会社『株式会社ダブルラック』においては、当社グループの顧客を中心に、販売代金等の割賦販売斡旋業務を行なってまいりました。また、美術品を担保として融資を行なう事業を開始し、今後の収益基盤の多様化に努めてまいりました。

この結果、版画を中心とした絵画の販売が低調だった事もあり、売上高906百万円（同4.5%減）、営業利益525百万円（同10.1%減）となりました。

#### ◆リゾート事業

子会社『タラサ志摩スパアンドリゾート株式会社』においては、三重県鳥羽市の「タラサ志摩ホテル&リゾート」を運営してまいりましたが、その運営を昨年12月よりリゾートホテル経営に関して豊富な経験とノウハウを持つ「株式会社星野リゾート」の100%子会社に委託いたしました。

しかしながら、宿泊人数の減少による宿泊収入や料飲収入の伸び悩みにより、売上高919百万円（同18.0%減）、営業損失137百万円（前年同期は232百万円の営業損失）となりました。

#### ◆健康産業事業

「カルナ フィットネス&スパ」（千葉県柏市）、エクササイズスタジオ&フェイシャルエステサロン「カルナスタジオ プラス」（神奈川県川崎市）、ヨーガスタジオ「ヨガッタ横浜店」（神奈川県横浜市）、エステティックサロン「エステルームパセオ」（宮城県仙台市）を運営しております。

この結果、売上高629百万円（同9.8%増）となりましたが、「カルナ フィットネス&スパ」及び「カルナスタジオ プラス」の会員獲得数が当初予定に届かなかった事もあり、営業損失75百万円（前年同期は161百万円の営業損失）となりました。

次期の見通しにつきましては、依然、雇用・所得環境は厳しく、当社グループを取り巻く事業環境についても引き続き厳しい状況が続くことが想定されます。

このような状況のもと、次期の方針として、当社の原点である「アート関連事業」にさらに経営資源を集中させてまいります。お客様本位の営業活動に注力し、さらなる販売費及び一般管理費の削減と、業務の効率化を推し進めてまいります。

また、『株式会社ダブルラック』における「美術品の購入及び販売」、「美術品担保融資」といった新規事業を行っていくことで収益基盤の多様化を図ってまいります。

「リゾート事業」につきましては、「タラサ志摩ホテル&リゾート」の運営を株式会社星野リゾートのグループに委託することで収益率のアップを目指してまいります。

「健康産業事業」につきましては、接客、サービス、運営等の見直しを行い、会員獲得数のアップに注力してまいります。

以上により、平成23年3月期の連結業績予想については、売上高7,950百万円（前年同期比22.1%増）、営業利益630百万円（同28.3%増）、経常利益660百万円（同50.3%増）、当期純利益320百万円（前年同期は391百万円の当期純損失）を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

① 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,282百万円減少した結果、16,833百万円となりました。これは、主に有形固定資産が823百万円減少したこと等によります。

また、負債につきましては、割賦利益繰延等の減少により、前連結会計年度末に比べ349百万円減少し、3,256百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ933百万円減少し、13,576百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、売上債権の減少等の増加要因があったものの、営業貸付金の増加、たな卸資産の増加等の減少要因により、前連結会計年度末に比べ1,712百万円減少し、3,507百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は1,040百万円となりました。

これは主に減損損失716百万円、売上債権の減少額1,243百万円等の増加要因があったものの、営業貸付金の増加額1,446百万円、たな卸資産の増加額1,257百万円等の減少要因があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は6百万円となりました。

これは主に敷金及び保証金の回収による収入32百万円、出資金の分配による収入32百万円等の増加要因があったものの、有形固定資産の取得による支出25百万円、無形固定資産の取得による支出15百万円、敷金及び保証金の差入による支出18百万円等の減少要因があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は661百万円となりました。

これは主に自己株式の取得による支出179百万円、配当金の支払481百万円等によります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期
自己資本比率 (%)	76.7	80.1	80.7
時価ベースの自己資本比率 (%)	37.4	18.1	21.8
債務償還年数 (年)	—	—	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	451.1	—	—

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

債務償還年数：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

※有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っている全ての負債を対象としております。

※営業キャッシュフロー及び利払いは、連結キャッシュ・フロー計算書に計上されている「営業活動によるキャッシュ・フロー」及び「利息の支払額」を用いております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主価値の向上を経営の最重要課題と位置付け、将来の事業展開に備えるための内部留保の充実に努めるとともに、可能な限り高水準な配当を行うことを基本方針とし、財政状況、利益水準、配当性向などを総合的に勘案して実施しております。平成22年3月期末配当金は、1株当たり5円の配当といたします。これにより中間配当金と合わせた年間配当金は1株当たり10円となります。平成23年3月期の年間配当金は、1株当たり10円を計画しております。

## 2. 企業集団の状況

当社グループは、当社（アールピバン株式会社）及び、子会社3社により構成されており、版画・絵画・美術品の購入及び販売事業、割賦販売斡旋事業、融資事業、リゾートホテル・フィットネスクラブ・ヨーガスタジオ・エステティックサロンの営業を行っております。当社グループの事業に係わる位置付け及び事業の種類別セグメントは、次のとおりであります。なお、事業の種類別セグメント情報における事業区分と区分内容は同一であります。

### アート関連事業

当社は、著名作家、有望作家の版画を、全国各地でのアートイベントを開催し販売しております。

子会社(株)e・ジュネックスは、イラスト系アートの版画の販売と、携帯電話の待受画面のコンテンツ配信等を行っております。

子会社(株)ダブルラックは、作家の育成や美術品の購入・販売を行っております。

### 金融サービス事業

子会社(株)ダブルラックは、主に当社グループの顧客に対して販売代金等の割賦販売斡旋業務、その他に融資事業を行っております。

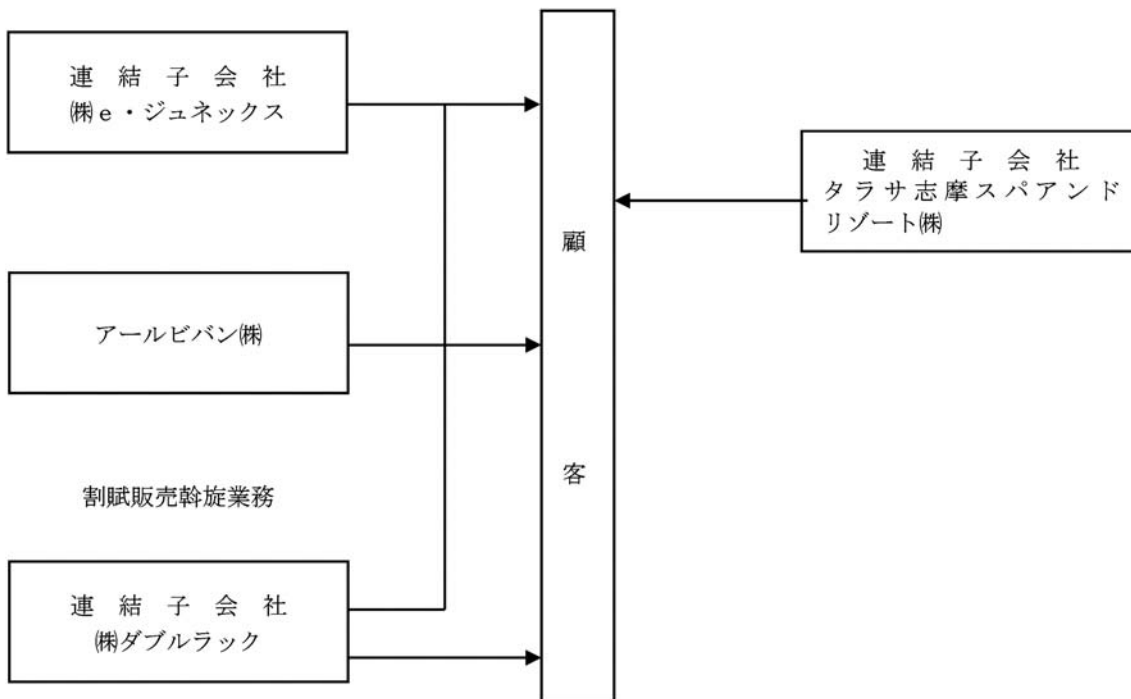
### リゾート事業

子会社タラサ志摩スパアンドリゾート(株)は、本格的なタラソテラピー施設を持った「タラサ志摩ホテル&リゾート」を三重県鳥羽市にて運営しております。

### 健康産業事業

子会社タラサ志摩スパアンドリゾート(株)は、フィットネスクラブ「カルナ フィットネス&スパ」（千葉県柏市）、エクササイズスタジオ&フェイシャルエステサロン「カルナ スタジオプラス」（神奈川県川崎市）、ヨーガスタジオ「スタジオヨガッタ」（神奈川県横浜市）、エステティックサロン「エステルームパセオ」（宮城県仙台市）の運営を行っております。

事業系統図は次のとおりであります。



(注) 子会社ウィルシャーデイトンファインアーツインクは、平成6年7月31日をもって営業活動を休止しており、今後も活動再開の計画はないことから、同社解散を決議し、清算いたしました。

### 3. 経営方針

平成21年3月期決算短信（平成21年5月15日開示）により開示を行なった内容から重要な変更がないため開示を省略しております。

当該決算短信は、次のURLからご覧いただくことができます。

（当社ホームページ）

<http://www.artvivant.co.jp>

（大阪証券取引所ホームページ（「JDS」検索ページ））

<http://jds.jasdaq.co.jp/tekiji/>

4. 連結財務諸表  
(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,220,041	3,507,274
受取手形及び売掛金	7,049,305	5,805,942
営業貸付金	—	1,660,818
商品及び製品	581,267	1,860,362
仕掛品	12,009	3,592
原材料及び貯蔵品	56,096	42,428
前払費用	315,972	229,217
繰延税金資産	443,129	544,011
その他	862,291	408,576
貸倒引当金	△92,465	△122,712
流動資産合計	14,447,648	13,939,512
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,615,980	2,088,916
減価償却累計額	△883,000	△983,781
建物及び構築物(純額)	1,732,979	1,105,135
土地	324,468	227,722
その他	566,278	482,045
減価償却累計額	△284,456	△299,622
その他(純額)	281,822	182,422
有形固定資産合計	2,339,270	1,515,280
無形固定資産		
のれん	26,766	16,378
その他	38,218	22,725
無形固定資産合計	64,984	39,104
投資その他の資産		
投資有価証券	541,699	524,702
敷金及び保証金	295,722	281,548
繰延税金資産	159,824	279,043
その他	382,472	342,985
貸倒引当金	△115,241	△88,610
投資その他の資産合計	1,264,477	1,339,669
固定資産合計	3,668,732	2,894,054
資産合計	18,116,381	16,833,566



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	298,074	240,623
未払法人税等	88,505	111,345
割賦利益繰延	1,683,813	1,384,326
賞与引当金	81,334	60,410
返品調整引当金	20,284	43,514
その他	1,094,290	1,076,366
流動負債合計	3,266,302	2,916,585
固定負債		
退職給付引当金	13,290	7,561
役員退職慰労引当金	312,508	328,166
その他	14,164	4,509
固定負債合計	339,963	340,237
負債合計	3,606,266	3,256,823
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,656,000	1,656,000
資本剰余金	6,706,301	6,706,301
利益剰余金	7,416,676	6,543,878
自己株式	△1,142,520	△1,322,392
株主資本合計	14,636,458	13,583,788
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△126,343	△7,044
評価・換算差額等合計	△126,343	△7,044
純資産合計	14,510,115	13,576,743
負債純資産合計	18,116,381	16,833,566

(2) 連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)
売上高	6,888,267	6,509,138
売上原価	3,199,208	3,206,950
売上総利益	3,689,058	3,302,188
販売費及び一般管理費	3,151,365	2,810,322
営業利益	537,693	491,866
営業外収益		
受取利息	9,678	3,511
受取配当金	7,408	4,411
子会社清算益	—	14,294
為替差益	10,658	—
雑収入	29,329	31,562
営業外収益合計	57,075	53,780
営業外費用		
投資事業組合運用損	42,309	58,918
貸倒引当金繰入額	20,706	—
為替差損	—	27,217
雑損失	9,979	19,959
営業外費用合計	72,996	106,096
経常利益	521,772	439,550
特別利益		
関係会社株式売却益	11,295	—
貸倒引当金戻入額	—	8,814
賞与引当金戻入額	—	20,197
特別利益合計	11,295	29,012
特別損失		
店舗閉鎖損失	12,714	1,834
固定資産除却損	4,670	436
減損損失	—	716,175
投資有価証券売却損	149,999	—
投資有価証券評価損	173,837	78,108
貸倒引当金繰入額	30,000	—
その他	1,604	4,681
特別損失合計	372,826	801,235
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	160,240	△332,673
法人税、住民税及び事業税	72,459	325,234
法人税等調整額	63,627	△266,242
法人税等合計	136,086	58,991
当期純利益又は当期純損失(△)	24,153	△391,665

(3) 連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	株主資本			
資本金				
前期末残高		1,656,000		1,656,000
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		1,656,000		1,656,000
資本剰余金				
前期末残高		6,706,301		6,706,301
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		6,706,301		6,706,301
利益剰余金				
前期末残高		7,667,730		7,416,676
当期変動額				
剰余金の配当		△275,207		△481,132
当期純利益又は当期純損失(△)		24,153		△391,665
当期変動額合計		△251,053		△872,798
当期末残高		7,416,676		6,543,878
自己株式				
前期末残高		△1,138,565		△1,142,520
当期変動額				
自己株式の取得		△3,955		△179,872
当期変動額合計		△3,955		△179,872
当期末残高		△1,142,520		△1,322,392
株主資本合計				
前期末残高		14,891,467		14,636,458
当期変動額				
剰余金の配当		△275,207		△481,132
当期純利益又は当期純損失(△)		24,153		△391,665
自己株式の取得		△3,955		△179,872
当期変動額合計		△255,008		△1,052,670
当期末残高		14,636,458		13,583,788













































